

尚綱学園の絵画

尚綱学園は、平成十年に創立百十年を迎えました。百周年から丁度十年過ぎた節目の時でしたので、記念誌「花さくら」が発行されました。この時、資料蒐集の一環として高校にある絵画・書などの調査を行いました。そして、あまりにも高名な方の作品があることに驚きました。これらの方々は、後世に伝えてゆかなければならない貴重な文化遺産です。多くの方々にこのことを知っていただきたいと思ひ、これから数回にわたり作品を紹介いたします。はじめに、本校教諭美術・洋画)でした松岡正直を取り上げます。

松岡は、明治三〇(一八九五年、熊本市で生まれ、昭和五二(一九七六年



に亡くなりました。銀光会・東光会会員で、本校には、大正十三(一九二四年から昭和四三(一九六八年)まで四五年間勤めました。松岡の本校に対する思いは、「尚綱」六四号(昭和四四年一月)に切々と語られています。「かえり見れば四十五年もの間には語りつくせぬいろいろのことがありました。尚綱校で育ち、尚綱校で人となり生を過ごしたようなものですかね。この間あまり欠席もなかった私でしたが、昨年は病気や交通事故にあつて欠勤が続き、ついに退職となったわけです。」

さて、松岡は昭和八(一九三三年、田代順七(元尚綱短期大学教授らと銀光会を創立しました。本校で教鞭を揮うかたわら、昭和十二(一九三七年、文展に入選し、日展の入選は九回を数えました。また、熊本県芸術功労者にも選ばれました。松岡は、本校退職後も創作意欲が旺盛でした。

「喜寿に達した私もおかげで元気です。この(昭和四八年)九月末から十月にかけて次女の砂村登美子の助けを得て東京から上高地への写真旅行に出かけ、…(尚綱)六九号)また、出水町今(現出水二丁目)に私塾「松岡画研」を開いて、後進の指導にあたることを大変な楽しみにしていました。尚綱六四号によれば、自らの人生観を次のように述べています。「扱て私の仕事は絵画で、この仕事は一生のものですから中には三十代でその人の最高のものを出す作家、五十代、七、八十代になって個性の最高を発揮する人も数あります。そこで私も今こそ時機到来と専念に頑張っております。」

松岡にとつて、尚綱校で過ごした日々はかけがえない自らの人生の歩みであつたと思ひます。そして、自らも述べているように、尚綱校で人格を培い、人間として育てられたのでした。自らの働いた職場である尚綱校に限りない愛情を注ぎ、誇りを持つていたと思ひます。やはり、尚綱校はこのよう



松岡正直「浜戸川」

教職員に支えられていたのだと実感しました。
松岡の作品は、本校に二百点あります。
一、「浜戸川」(校史資料室蔵)
二、「石灰岩の島」(天草姫戸)
三、三号館試食堂架設)
また、「尚綱」六三、七十号の表紙絵なども描いています。

(注) 浜戸川は下益城郡美里町田中央町の山地に源を発する。同郡城東町、高台町を経て、宇土市で緑川に合流する。
文展「文壇美術展覧会」
明治四〇(一九〇七)年創立。
現在の日展(日本美術展覧会)
銀光会「在野美術家団体(昭和八(一九三三年、東光会(昭和七年創立)の協力支援として田代順七、松岡正直らが創立



④ 貧しい国の豊かな心 | 連載コラム 礎

ある家で、お姉ちゃんがお隣からケーキを一個戴きました。お母さんは姉弟に半分ずつ食べなさいと渡して「なんで半分にするのかわかる？」と聞きました。姉は「私がみんな食べるとかわいそうだから」と答えました。一方弟は「今日半分にするとう度僕がもらった時、お姉ちゃんも半分もらえから」と言いました。するとお母さんは「どちらも少しづつ正しいわね。ただどかわいそうだから分けるのなら、憎らしいとあげないことになるのではないの。この次ももらえから分けるというのだったら、分けてもらえない保障がないとあげないことになるわね。」そして、お母さんは子供たちにゆつくり論すように「お父さん、お母さんは、あなたたちにケーキを丸ごと一人で食べるより、二人で仲良く分けて食べる方がおいしいと思える人間になって欲しいと願っているのよ」と話しました。

今、私達は余裕ができたから援助する。かわいそうだから助けるという発想ですが、余ったからでは余らなかつたらしないことになりません。かわいそうだから、見下した態度です。どちらも大事な何か欠けているようです。インドは、世界中で一番貧しい国だといわれています。その貧しい国の人々が、さらに自分より貧しい人たちのために、喜んで喜捨をしています。このことは物を施すことは、余ったから、かわいそうだからするものではないことを教えています。



皆様のオリジナルエッセイの投稿を募集しています

オリジナルエッセイであれば、特にテーマや特定のジャンルまた、応募資格も問いません。本文800字前後にてお願いいたします。(随時募集)応募の際には必ず氏名、住所、電話番号を明記してください。作品は本誌上への掲載をもって発表と換えさせていただきます。

●作品の宛先・お問い合わせ

尚綱学園事務局 広報室宛 〒862-8678 熊本県熊本市九品寺2丁目6番78号
メールでの応募も受け付けております ◆[メールアドレス] kohou@shokei-gakuen.ac.jp